

# 長崎高教組新聞

発行 長崎市中川2丁目2番5号 長崎高教組会館  
長崎県立高等学校教職員組合  
TEL (095) 827-5882  
FAX (095) 826-2976  
編集責任者 大澤 雅信  
一冊 10円

高教組メール  
アドレス  
naga-kks@fs  
inet.or.jp

## 2012年度 全県分会長・支部 代表者会議を開催

### 年度当初のとりくみを確認

転入組合員の歓迎も含めて職場集会を開催しよう。  
「学校運営と勤務条件に関する県下統一申し入れ」にとりくもう。  
組合員拡大に粘り強くとりくもう。

長崎高教組は3月31日、諫早市高城会館で、全県分会長・支部代表者会議を開催しました。



馬場書記長からの報告を聞く全体会の参加者



表者55人が参加しました。参加者は、馬場書記長の報告について、これらも高教組が何とこれらも高教組が... (text continues with details of the meeting and reports)

高教組はこれまで、県教委や人事委員会に対して、パワハラ防止のための指針を要求してきましたが、県教委は3月19日の折衝で、「パワハラも含んだハラスメント」についての文書をつくらせることにしたと回答し、その後、3月30日付けで「セクハラ、パワハラ防止」と題するリーフレットを各学校にメールで送ったことを明らかにしました。

とりあげて、防止に努めていくとするのみで、指針の作成については、「定義が難しい」などとして消極的な姿勢を示していました。

今回のリーフレットは校内研修等での資料という位置づけで、指針と呼べるものではありませんが、リーフレットに示された例などは、県教委がパワハラに該当すると指摘しているものとして職場で活用できます。

また、県下統一申し入れのとりくみに関連して、「週休日の振替拡大について、校長にきちんと説明をさせたい」「復命書の省略・簡素化をさせたい」など、職場の状況に応じたとりくみの重点が議論されました。

組合員拡大については、「新任の人に声をかけたい」「転入してきた元組合員と話しをしようと思う」「20代の講師が3人いるので、はたらきかけていきたい」など、具体的な声をかける対象者をイメージしながらの発言も数多くありました。

## 県教委、セクハラ・パワハラ防止のリーフレットを各学校に送付

### パワハラ認識度チェック5項目をあげる



人事をほのめかしたことがある。  
職務に関係のない用件を指示したり、強要したことがある  
◆特定の職員を職場で無視したり、仕事から排除したことがある。

大、見える分会活動をどうつくるかということでした。今職場は東日本大震災の話題も出ないくらい疲弊し、超多忙化にあえいでいます。みんなでも要求を掲げて行動するところまでつながらない原因のひとつがここにあります。

全体として、組合員同士が助け合いながら、それぞれの職場の状況に応じて、とりくみをすすめていく意義を確認しあった分散会でした。



▲ 分散会での協議の様子

# 「先生の学校」も開催



全県分会長・支部代表者会議「先生の学校」の終了後、交流会を開催しました。交流会では、「先生の学校」参加者の紹介の中で、複数の参加者から、正式に採用されたら高教組に是非加入したいとの決意が述べられ、全参加者の大きな拍手がわきました。



高教組は、3月31日諫早高城会館で、全県分会長・支部代表者会と平行して、青年教職員を対象とした「先生の学校」を開催しました。参加者は、臨時的任用教職員や教員採用試験受験予定の未組合員5人を含めて合計8人でした。

2011年度末で長崎高教組委員を退任した平井秀治氏を講師に迎えて、初めて学級担任を受け持つ若い教職員に、新学期を迎え希望と不安を抱えているであろう子どもたちどのように対するのかが、「学級開き」をどう展開するのかなど、豊富な経験をもとに生徒の目線にたった実践をわかりやすく説明しました。参加した青年教職員は未組合の参加者も含めて、皆一様に、とてもためになった、参加してよかったとの感想を述べています。また、3月に組合に加入し、初めて組合の会議に参加された若い女性の先生は、「経験豊かな平井先生の講義は、生徒の目線にたった内容で、すぐに実践したいと思いました」「定時に勤務されている先生方の実践報告を聞くことができ、日頃抱えている教科指導、生徒指導、学級経営の悩みや問題について助言を



▲「先生の学校」で熱心に協議する参加者



▲木管楽器演奏も登場した交流会

## 2012年度

### 高校・特別支援学校

# 人事異動の概要と問題点

高教組は2月21日、2012年度人事異動についての県教委折衝を行いました。その中で明らかになった主な点は次のとおりです。

#### ○教頭の複数配置及び副校長任用

盲学校が教頭1人になり、複数配置校が1校減少。盲学校は高等部主事が復活。

佐世保商業が教頭2人から、副校長1人、教頭1人へ。県教委は、工業・農業には副校長がいたが商業にはいなかった。佐商は県商研の事務局があつて校長の出張も多く、学校からの要望もあつたと説明。

#### ○養護教諭の配置改善

佐世保特支北松分教室の兼務を解消し、養護教諭を配置。新設の対馬分教室は兼務でスタート。県教委は12年度の生徒数が6人と少ないことをあげ、次年度以降の配置を努力することを表明。

11年度末で猶興館大島分校が閉校になったため、その分の定数が北松分教室に移った形で、実質的な定員増はすすんでいない。

#### ○指導教諭の増減

体育と音楽で各1人退職。新たな任用はなかったため、指導教諭は11年度の9人から2人減って7人となった。

短時間勤務の講師が6人配置の学校と4人配置の学校が各2校あり、配置が偏っているとする高教組の追及に對して、県教委は「再任用の希望が島原地区に多かった」「配置校については、まず一般の人事で教職員を配置するので、その結果、再任用を配置できる定数の余裕のある学校が偏る形になった」と釈明し、短時間勤務者の6人配置している学校は別に通常の人事異動として障害児学校から高校へ1人異動。

#### ○高校・障害児学校間の研修交流人事

高校から障害児学校へ、障害児学校から高校へ、それぞれ1人が異動。研修交流人事としては別に通常の人事異動として障害児学校から高校へ1人異動。

#### ○農・水・工間の交流人事

県教委は、農・工間の交流ができないか検討したが、現場に聞き取りをした結果、カリキュラム等の指導内容の面で困難ということで、実現に至らなかったと説明。

#### ○再任用

更新の人も含めて、教諭(フルタイム)20人、講師(短時間)86人、事務7人、実教11人、通信長1人の合計125人を任用。県教委は、希望者の中で辞退した人の数は56人と説明。

# 人事院の「退職給付引き下げ」見解表明の問題点

～退職金に共済職域加算年金部分を加え、民間と比較～

## 民間を400万円上回る?

人事院は、政府の要請により民間の企業年金および退職一時金の実態把握のため、約3600社から得たデータをもとにその調査結果を3月7日に公表しました。

## 退職給付の引き下げを前提とした調査

人事院の調査結果を受けて、川端総務大臣は「退職手当の給付水準を見直したい」と直ちに表明しました。国家公務員の退職給付については、公務員の総人件費削減に関する関係閣僚会議において「退職手当、共済年金

その結果、年金(企業年金)、退職一時金を合わせた退職給付総額で、民間2547万円に対して、公務2950万円、公務が約400万円上回っているとして、「国家公務員の退職給付について

見直しを行うことが適切である」、「過去の引き下げ額と比べても大幅な引き下げ額となるとの見解を表明し

等その他の課題についても、官民比較の準備を進める」ことが確認されていきました。この経過からすれば、今回の人事院の調査結果は、もともと政府が退職給付の引き下げを意図して人事院に調査を要請し、これに沿った結果が出されたもので

では、民間の退職給付一部として考えられる企業年金と共済職域加算年金を同様に考えています。ところが、2004年の第159国会議院での政府答弁の中で、共済職域年金については、「国家公務員共済年金の職域加算部分は、公的年金の中で、...国家公務員に様々な身分上の制約が課されていること等を踏まえて設けられたものであり、その給付水準は民間企業の企業年金の支給水準との関係で設定している

ものではない」としているのです。人事院が今回の実態調査の中で、比較するにあたって国家公務員の退職金に共済職域年金を加えてその総額と民間との比較を行っていることは、明らかに政府の答弁に反することであり、公務が400万円も上回っているとの結果は断じて受け入れられません。

川端総務大臣は、来年度中に必要な法案を出すとしており、定年延長を原則とする公務の安定した高齢雇用の実現と併せて、退職給付の引き下げ改善を許さないたいかに全力をあげて取り組むことが必要です。

更新の人も含めて、教諭(フルタイム)20人、講師(短時間)86人、事務7人、実教11人、通信長1人の合計125人を任用。県教委は、希望者の中で辞退した人の数は56人と説明。

個別人事について、異動後の生活の拠点をどこに置くのかという確認が不十分だった事例の中で、県教委は、「本人からも10月のヒアリングで十分に伝えられなかったと思う場合や事情が変化した場合などは、その都度校長に伝えてほしい」などと、最初のヒアリングの後も、校長と積極的に面談することを奨励した。